

教育課程研究集会

【中学校 国語科】

《部会Ⅰ：説明》「徳島版読解力」・
「全国学力・学習状況調査」について

令和6年度からは、

すべての教科等にわたる
「徳島版読解力」を活かした
学力向上のポイント

の活用に
取り組んでいます

すべての教科等にわたる「徳島版読解力」を活かした学力向上のポイント

「徳島版読解力」の育成をめざして

多様で複雑な現代の社会を生きていく児童生徒には、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、自分の考えを形成するために必要な情報を取捨選択し、選び取った情報を解釈したり活用したりする力が必要であると考えられる。このようなこれからの社会を生きるために必要となる力を徳島版読解力と定義し、すべての教科等においてその育成を図る。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力

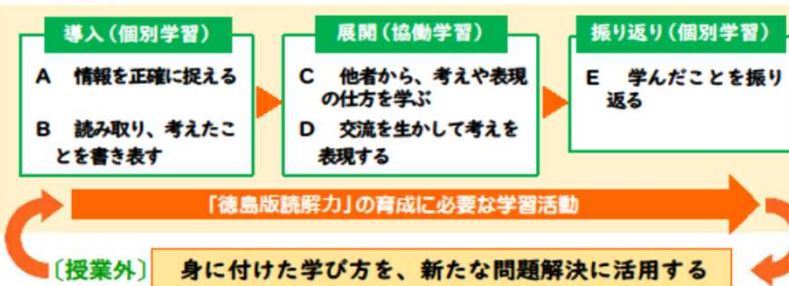


「徳島版読解力」を育成する学習のイメージ

各学習段階、学習場面〔A～E〕において「5つの力」を育成！

〔授業〕

- ★ 全ての教科等での取組
- ★ 学習方法・ツールの工夫
- ★ 授業、授業外での繰り返し



令和6年度 全国学力・学習状況調査 問題別集計結果

徳島	全国	比較
57	58.1	-1.1

3

番号	徳島(公立)	全国(公立)	比較	無解答率(徳島)
1一【話聞】	62.4	63.2	-0.8	0.4
1二【話聞】	67.1	68.5	-1.4	4.1
1三【情報】	44.3	44.0	+0.3	0.6
1四【話聞】	42.0	44.7	-2.7	12.4<記述>
2一【読む】	38.0	36.3	+1.7	0.8
2二【情報】	73.2	75.2	-2.0	0.8
2三【読む】	65.1	64.5	+0.6	0.9
2四【読む】	40.5	42.6	-2.1	13.3<記述>
3一【書く】	79.3	81.4	-2.1	1.0
3二【言葉】	50.3	53.8	-3.5	1.4
3三【言葉】	69.7	68.8	+0.9	9.4
3四【書く】	42.9	49.3	-6.4	20.9<記述>
4一【言葉】	54.6	54.9	-0.3	1.9
4二【読む】	49.5	48.3	+1.2	3.8
4三【我国】	79.2	75.6	+3.6	2.5

令和5年度 全国学力・学習状況調査 問題別集計結果

徳島	全国	比較
68	69.8	-1.8

番号	徳島	全国	比較	無解答率(徳島)
1一	86.0	87.5	-1.5	0.1
1二	67.3	65.1	+2.2	0.1
1三	77.5	76.6	+0.9	0.3
1四	78.8	82.5	-3.7	15.2
2一	90.1	91.1	-1.0	0.2
2二	61.9	63.0	-1.1	0.6
2三	72.0	74.2	-2.2	0.5
2四	63.9	67.5	-3.6	5.9
3一	52.0	54.3	-2.3	1.3
3二	43.1	43.9	-0.8	11.5
3三	56.8	61.8	-5.0	3.4
3四	66.5	72.1	-5.6	14.5
4一	89.0	82.5	+6.5	3.9
4二	72.4	74.1	-1.7	5.8
4三	43.3	50.0	-6.7	27.2

令和6年度 全国学力・学習状況調査 中学校国語結果

徳島	全国	比較
57	58.1	-1.1

令和5年度 全国学力・学習状況調査 中学校国語結果

徳島	全国	比較
68	69.8	-1.8

令和4年度 全国学力・学習状況調査 中学校国語結果

徳島	全国	比較
71	69.0	+2.0

昨年度の課題等〔知識及び技能〕

◇…比較的できている点 ◆…課題のある点 [] 内の記号は、問題番号

〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕

◆ 文の成分の順序や照応について理解することに課題がある。

〔3二〕【徳島…50.3%】 ※全国比－3.5%

〔我が国の言語文化に関する事項〕

◇ 行書の特徴を理解することについてはできている。

〔4三〕【徳島…79.2%】 *全国比＋3.6%

昨年度の課題等〔思考力・判断力・表現力等〕

◇…比較的できている点 ◆…課題のある点 [] 内の記号は、問題番号

〔話すこと・聞くこと〕

- ◆ 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることに課題がある。

〔1四〕【徳島…42.0%】 ※全国比－2.7%

※ 「話すこと・聞くこと」に関する問題は3問あったが、
すべて全国に比べてマイナスであった。

昨年度の課題等〔思考力・判断力・表現力等〕

◇…比較的できている点 ◆…課題のある点 [] 内の記号は、問題番号

〔書くこと〕

- ◆ 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することに課題がある。

〔3四〕【徳島…42.9%】 ※全国比－6.4%（最大）

※ 以前から、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことについては、課題があった。

昨年度の課題等〔思考力・判断力・表現力等〕

9

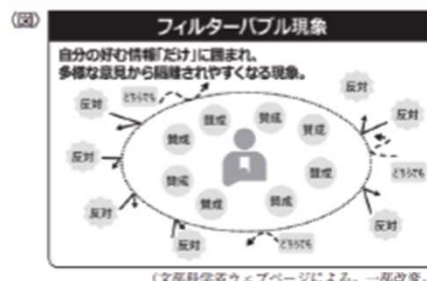
◇…比較的できている点 ◆…課題のある点 [] 内の記号は、問題番号

〔読むこと〕

- ◆ 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がある。〔2一〕【徳島…38.0%】 *全国比+1.7%
※今回の問題で、唯一正答率が40%を下回った問題
- ◆ 目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がある。〔2四〕【徳島…40.5%】 ※全国比-2.1%

1 話し合いをする(「フィルターバブル現象」)

- 藤田さん 私は、この前、インターネットで和菓子作りの本を探して購入しました。そのあと、インターネットを利用するたびに、和菓子作りに関する本が表示されるようになって、次に読みたい本もすぐに見付けました。
- 今井さん たくさんの本がある中で、自分の好みに合った本を選んでしてくれるのは、便利ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは思っていませんか。
- 藤田さん そうですね。言われてみれば、和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。④のこのあたりにいるような感覚ですね。今井さんは、ふだんどうやって本を選んでいるのですか。
- 今井さん 私は、図書館や書店で本を選んでみます。読みたい本を見付けるのには時間がかかりますが、本棚を眺めると、思いがけない本との出会いがあって興味が湧くと感じています。
- 藤田さん 図書館や書店でいろいろな本棚を眺めながら本を選ぶと、時間はかかっても、情報が偏るような状態にはならないでしょうね。
- 山岡さん そういえば、インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがありますよ。そこで紹介されている本は、本を探している側の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。
- 今井さん そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことと似ていますね。⑤おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。
- 山岡さん フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考えてみる必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選ぶと思いますか。



〈解説〉

インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。

例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

- 山岡さん 皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。
- 今井さん 私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、興味している将棋に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。
- 山岡さん 〈解説〉の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があります。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか。
- 今井さん 身近なテーマでよいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。

山岡さんたちは、国語の時間に、「フィルターバブル現象の資料」をもとに、グループで話題を決めて話し合っています。あとの問いに答えなさい。

1 話合いをする(「フィルターバブル現象」)

—【話し合いの一部】の——線部①「でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは感じませんでしたか。」という発言について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

- 1 藤田さんの経験が、【フィルターバブル現象】の内容に当てはまるのかどうかを確認しようとしている。
(63・5%)
- 2 藤田さんの経験が、【フィルターバブル現象】の内容とは関係していないことを明らかにしようとしている。
(4・0%)
- 3 藤田さんの経験をもとに、【フィルターバブル現象】の内容に反対する意見を述べようとしている。
(28・0%)
- 4 藤田さんの経験をもとに、【フィルターバブル現象】の内容に誤りがあることを指摘しようとしている。
(4・0%)

必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる。

▼「第一学年」思考力、判断力、表現力等
A 話すこと・聞くこと E
《構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有
(聞くこと)》

1 話し合いをする(「フィルターバブル現象」)

四 【話し合いの一部】の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

条件1

フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。

条件2

【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書くこと。

■ 正答の条件 ■

- ① フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書いている。
- ② 【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書いている。
- ③ 実際に話すように書いている。

話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

▼「第一学年」思考力、判断力、表現力等
A 話すこと・聞くこと 才
《話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有
(話し合うこと)》

無解答率
12.4%

1 話し合いをする(「フィルターバブル現象」)

〔解答類型3〕

〈例〉

- ・ フィルターバブル現象の特徴は、自分の好む情報だけに囲まれて多様な意見に触れにくくなることなので、そうならないように図書館などで本を選びたいと思います。

自分の考えが、【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書くことができていない。

〔解答類型4〕

〈例〉

- ・ 山岡さんが話してくれた、様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用して本を選んでみたいと思いました。

フィルターバブル現象の特徴を取り上げて書くことができていない。

- ・ フィルターバブル現象は、「その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる」ということなので、自分の好きなものがすぐ見られるのは便利だけれど、今井さんのような思いがけない本との出会いはなくなってしまうので、そういう点では困ると思います。

これからどのように本を選びたいかを具体的に書くことができていない。

1 四の解答例

■ 正答の条件 ■

- ① フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのようなように本を選びたいかを具体的に書いている。
- ② 【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書いている。
- ③ 実際に話すように書いている。

〔解答類型1〕

① ○ ② ○ ③ ○ (正答) 45・1%

〈例〉

・ 山岡さんの発言にあった、様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用してみたいと思います。自分とは異なる価値観に意識して触れ、多様な意見に触れにくい状態に陥らないようにすることが大切だと思いました。

・ 今井さんが言うように、フィルターバブルには好みに合った本を選んで示してくれるという便利な面もあるし、藤田さんが言うように、それ以外の本に出合いにくくなることもあるので、本を選ぶときには、インターネットと図書館などを使い分けたいと思います。

学習指導に当たって

(報告書p.28)

15

話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることに課題がある。

- ・ 話し合いを通して、考えを広げたり深めたりするには、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることが必要。



- ・ 話し合いの目的や話題を意識し、話し合いがどのような段階にあるのかを捉えながら話したり聞いたりできるように指導する。

3 物語を創作する（「紙の辞書」）

二 佐藤さんは、【物語の下書き】の線部「すぐに知りたいことを教えてくれるし」について、語句の係り方があってくれるし」のように「すぐに」の位置を直すことにしました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 「すぐに」という主語と、それを受ける「教えてくれるし」という部分の関係を明確にしようとした。
(11・2%)

2 「すぐに」という修飾語と、修飾される「教えてくれるし」という部分の関係を明確にしようとした。
(54・2%)

3 「知りたいことを」という修飾部と、修飾される「すぐに」という部分の関係を明確にしようとした。
(14・2%)

4 「知りたいことを」という主部と、それを受ける「教えてくれるし」という部分の関係を明確にしようとした。
(19・3%)

文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる。

▼「第二学年」知識及び技能
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 才《文や文章》

3 物語を創作する（「紙の辞書」）

■ 小学校 ■

オ その他にも、遊び終わったらすぐに遊具をかたづけ
ることがむずかしい場合もあるでしょう。

Q 「すぐに」はどの言葉を詳しくしていますか。

A. 3 かたづける（43・8％）

主語と述語との関係、修飾語と被修飾語との関係、指示
する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解
すること。

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 力《文や文章》
▼小学校第三学年及び第四学年 知識及び技能

■ 中学校 ■

←
〈修正前〉 「すぐに知りたいことを教えてくれるし」

〈修正後〉 「知りたいことをすぐに教えてくれるし」

Q 語句の係り方があいまいだから直した。その意図は。

A. 2 「すぐに」という修飾語と、修飾される「教え
てくれるし」という部分の関係を明確にしよう
とした。（54・2％）

単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序
や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章
の構成や展開について理解を深めること。

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 才《文や文章》
▼中学校第二学年 知識及び技能

4 短歌を紹介する（「月と風景」）

三 田中さんは、短歌を紹介するための資料の中に、テーマである「月と風景」を行書で書きました。次のアからエまでの部分の書き方について説明したものととして最も適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選びなさい。

1 アの部分、楷書とは異なり点画を連続して書いている。

2 イの部分、楷書とは異なり点画を直線的に書いている。

3 ウの部分、楷書と同様に終筆を止めて書いている。

4 エの部分、楷書と同様に点画を省略して書いている。



行書の特徴を理解しているかどうかをみる。

▼「第一学年」知識及び技能

(3)我が国の言語文化に関する事項 エ(イ)

《書写》

徳島79.2%（全国比+3.6%）

中学校国語科における授業づくりについての チェックポイント例

- 国語科の年間指導計画について、どの時期にどの指導事項を指導するのかを意識して作成している。
- 全国学力・学習状況調査の結果等を基に、どの指導事項の定着に課題があるのかを明らかにし、指導計画等に反映させている。
- それぞれの指導事項を指導するために、教材を適切に取上げ、効果的な言語活動を設定した授業を構想している。
- 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』等を参考に、評価規準を設定している。
- 評価方法が明らかであり、効率的に評価するための工夫が考えられている。
- それぞれの評価規準について、「努力を要する」状況の生徒への手立てが考えられている。

- ・ 示された文章等から情報を読み取る力



- ・ 自分の考えを形成するために大量の情報を取捨選択したり、視覚的に情報を読み取ったりすることで

→情報を活用したり、解釈したりする力

読解力の定義

【読解力の定義】

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと。

※下線部は2018年調査からの定義変更箇所

- コンピュータ使用型に移行し、デジタルテキストを踏まえた設計となったため、「書かれたテキスト」から「テキスト」に変更。（デジタルテキスト：オンライン上の多様な形式を用いたテキスト（Webサイト、投稿文、電子メールなど））
- 議論の信ぴょう性や著者の視点を検討する能力を把握するため、テキストを「評価する」という用語を追加。

測定する能力

①情報を探し出す

- －テキスト中の情報にアクセスし、取り出す
- －関連するテキストを探索し、選び出す

②理解する

- －字句の意味を理解する
- －統合し、推論を創出する

③評価し、熟考する

- －質と信ぴょう性を評価する
- －内容と形式について熟考する
- －矛盾を見つけて対処する

（下線部は、2018年調査から新たに定義に追加された要素）

読解力の調査結果の分析

- 読解力の平均得点の低下に影響を与える要因について分析したところ、生徒側（関心・意欲、自由記述の解答状況、課題文の内容に関する既存知識・経験、コンピュータ画面上での長文読解の慣れ等）、問題側（構成、テーマ、テキストの種類、翻訳の影響等）に関する事項などの様々な要因が複合的に影響している可能性があると考えられる。
- 読解力を測定する3つの能力について、それらの平均得点が比較可能な2000年、2009年及び2018年（読解力が中心分野の回）の調査結果を踏まえると、
 - ・「②理解する」能力については、その平均得点が安定的に高い。
 - ・「①情報を探し出す」能力については、2009年調査結果と比較すると、その平均得点が低下。特に、習熟度レベル5以上の高得点層の割合がOECD平均と同程度まで少なくなっている。
 - ・「③評価し、熟考する」能力については、2009年調査結果と比較すると、平均得点が低下。特に、2018年調査から、「質と信ぴょう性を評価する」「矛盾を見つけて対処する」が定義に追加され、これらを問う問題の正答率が低かった。
- また、各問題の解答状況を分析したところ、自由記述形式の問題において、自分の考えを根拠を示して説明することに、引き続き課題がある。誤答には、自分の考えを他者に伝わるように記述できず、問題文からの語句の引用のみで説明が不十分な解答となるなどの傾向が見られる。

1. 2018年調査の結果

● OECD加盟国(37か国)における比較

□ は日本の平均得点と統計的な有意差がない国

	読解力	平均 得点	数学的リテラシー	平均 得点	科学的リテラシー	平均 得点
1	エストニア	523	日本	527	エストニア	530
2	カナダ	520	韓国	526	日本	529
3	フィンランド	520	エストニア	523	フィンランド	522
4	アイルランド	518	オランダ	519	韓国	519
5	韓国	514	ポーランド	516	カナダ	518
6	ポーランド	512	スイス	515	ポーランド	511
7	スウェーデン	506	カナダ	512	ニュージーランド	508
8	ニュージーランド	506	デンマーク	509	スロベニア	507
9	アメリカ	505	スロベニア	509	イギリス	505
10	イギリス	504	ベルギー	508	オランダ	503
11	日本	504	フィンランド	507	ドイツ	503
12	オーストラリア	503	スウェーデン	502	オーストラリア	503
13	デンマーク	501	イギリス	502	アメリカ	502
14	ノルウェー	499	ノルウェー	501	スウェーデン	499
15	ドイツ	498	ドイツ	500	ベルギー	499
16	スロベニア	495	アイルランド	500	チェコ	497
17	ベルギー	493	チェコ	499	アイルランド	496
18	フランス	493	オーストリア	499	スイス	495
19	ポルトガル	492	ラトビア	496	フランス	493
20	チェコ	490	フランス	495	デンマーク	493
	OECD平均	487	OECD平均	489	OECD平均	489
	信頼区間※(日本):499-509		信頼区間(日本):522-532		信頼区間(日本):524-534	

PISA2022（得点の国際比較）

OECD加盟国
(37か国)

順位	数学的リテラシー	平均得点	読解力	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	日本	536	アイルランド*	516	日本	547
2	韓国	527	日本	516	韓国	528
3	エストニア	510	韓国	515	エストニア	526
4	スイス	508	エストニア	511	カナダ*	515
5	カナダ*	497	カナダ*	507	フィンランド	511
6	オランダ*	493	アメリカ*	504	オーストラリア*	507
7	アイルランド*	492	ニュージーランド*	501	ニュージーランド*	504
8	ベルギー	489	オーストラリア*	498	アイルランド*	504
9	デンマーク*	489	イギリス*	494	スイス	503
10	イギリス*	489	フィンランド	490	スロベニア	500
	OECD平均	472	OECD平均	476	OECD平均	485

全参加国・地域
(81か国・地域)

順位	数学的リテラシー	平均得点	読解力	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	シンガポール	575	シンガポール	543	シンガポール	561
2	マカオ	552	アイルランド*	516	日本	547
3	台湾	547	日本	516	マカオ	543
4	香港*	540	韓国	515	台湾	537
5	日本	536	台湾	515	韓国	528
6	韓国	527	エストニア	511	エストニア	526
7	エストニア	510	マカオ	510	香港*	520
8	スイス	508	カナダ*	507	カナダ*	515
9	カナダ*	497	アメリカ*	504	フィンランド	511
10	オランダ*	493	ニュージーランド*	501	オーストラリア*	507

【出典】 OECD生徒の学習到達度調査PISA2022のポイント(国立教育政策研究所)から作成

* 国名の後に「*」が付されている国・地域は、PISAサンプリング基準を一つ以上満たしていないことを示す。

全分野で世界トップ級 ICT×学習への慣れも背景

23

文科省資料より

(1) 学習の基盤となる資質・能力 (第1章第2の2の(1))

(1) 各学校においては、生徒の発達段階を考慮し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む。)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

本項は、生徒の日々の学習や生涯にわたる学びの基盤となる資質・能力を、生徒の発達段階を考慮し、それぞれの教科等の役割を明確にしながら、教科等横断的な視点で育んでいくことができるよう、教育課程の編成を図ることを示している。学習の基盤となる資質・能力として、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等を挙げている。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力

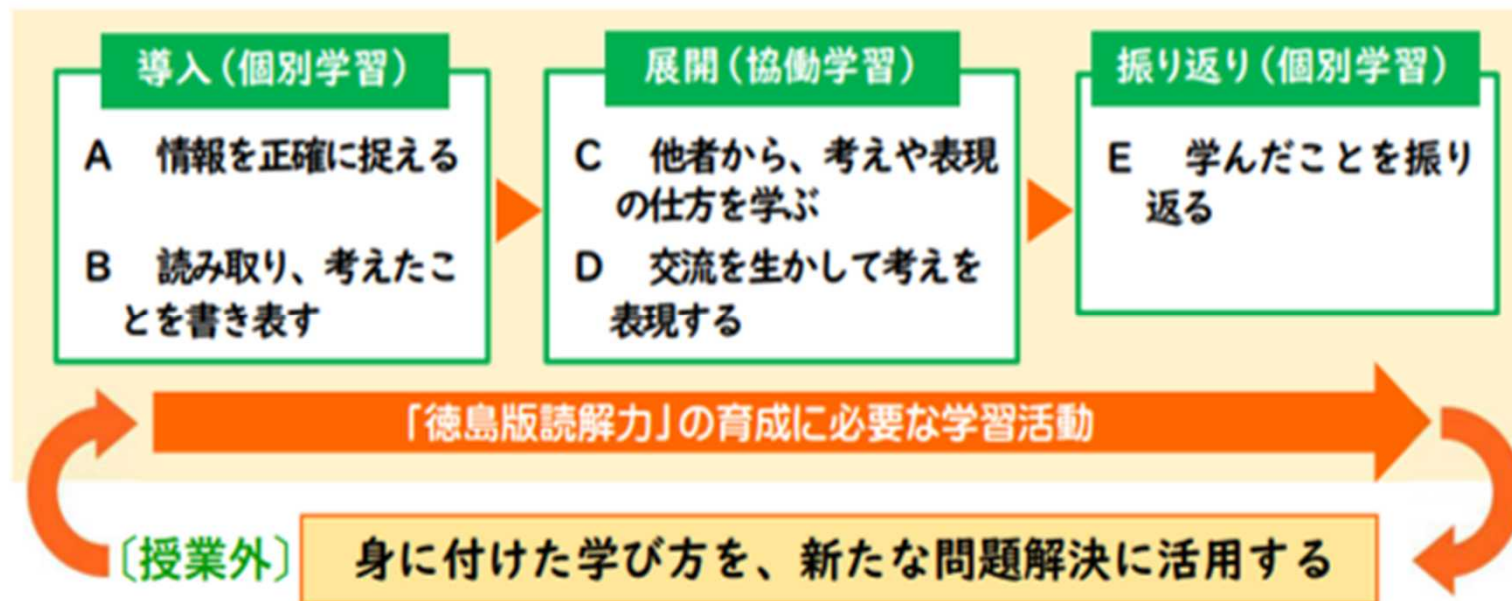


「徳島版読解力」を育成する学習のイメージ

各学習段階、学習場面〔A～E〕において「5つの力」を育成！

〔授業〕

- ★ 全ての教科等での取組
- ★ 学習方法・ツールの工夫
- ★ 授業、授業外での繰り返し



5つの力、A～Eの活動の土台となるのが、「主体的に学習に取り組む態度」である。

自己調整力

学 習 場 面		学 習 活 動	読解力	学習方法・学習ツール例	ICTの利活用例	
授 業	導 入 (個 別 学 習)	A 情報を正確に捉える	○文章などを繰り返し読む。 ○意味の分からない語句や表現を取り出し、調べる。 ○心に残る表現や大事だと思うところを探す。 ○全体をいくつかの部分(問題、例、データ、まとめなど)に分けたり、事実と考えを区別したりする。 ○語句と語句、情報相互の関係を見付けて、整理する。 ○言語情報と、図・表・グラフ・写真などの関係を読み取る。 ○問題の解決につながりそうな部分を見付ける。	1・4 1 1 2 3・4 1・2 3 2	【音読、黙読、視写、聴写】 【傍線や下線を引く】 【丸や四角で囲む】 【線でつなぐ】 【図、表、思考ツール】 【辞典、事典】	【インターネット】
		B 読み取り、考えたことを書き表す	○思いついたことを書き留める。 ○箇条書きにしたり見出しを付けたりして、書き留めたことを分かりやすく整理する。 ○書き留めたことを見返し、付け足したり、削ったりして、推敲する。	1・2 3・5 4・5	【メモ】 【付箋】 【ノート、ワークシート】 【ホワイトボード】 【図、表、思考ツール】	【メモ・付箋機能】 【画像や動画のキャプション】
	展 開 (協 働 学 習)	C 他者から、考えや表現の仕方を学ぶ	○情報を出し合ったり、根拠を明確にして考えを伝え合ったりする。 ○他者の伝えたいことや考えがはっきりするように、質問や応答をする。 ○他者の考えを聞き、自分の考えや表現の仕方との共通点、相違点を見付ける。 ○他者と協力して問題を解決する。	1 2 3 4 5	【相互評価、コメント】 【話し合い、討論(ペア・グループ・クラス)、スピーチ】 【ポスターセッション】 【質問、応答】 【図、表、思考ツール】	【チャット】 【学習支援クラウドアプリ】
		D 交流を生かして考えを表現する	○交流の中で心に残った他者の言葉や表現の仕方の工夫を書き留める。 ○新しく知ったことや考えたことを付け加えたり、不要な情報を削ったりして、分かりやすい表現に直す。 ○情報の軽重を判断し、色や印を使って可視化する。	1・2 4・5 2・3	【メモ】 【付箋】 【ノート、ワークシート】 【ホワイトボード】 【線でつなぐ】 【図・表・思考ツール】	【メモ・付箋機能】 【画像や動画のキャプション】
	(振 個 り 別 返 学 習 リ 習)	E 学んだことを振り返る	○多様な考えや情報を比較したり、関連付けたりして、自分の考えを見直し、表現する。 ○学習活動の達成感だけでなく、学んだことや考えたことと記録に残す。 ○新たに生じた疑問や、次に向けての目標を書き留める。 ○個々の振り返りを共有し、自分の学習に生かす。	3・4 5 2・4 3・5 4・5	【線でつなぐ】 【図・表・思考ツール】 【メモ】 【付箋】 【ノート、ワークシート】 【ホワイトボード】	【メモ・付箋機能】 【画像、動画】 【学習支援クラウドアプリ】
授 業 外		身に付けた学び方を、新たな問題解決に活用する	○興味・関心のあることや、予習・復習で生じた疑問に関係する情報を集める。 ○読書や会話を通して、生活の中で出会う様々な問題に関心をもち、語彙力を高める。 ○集めた情報を読んだり、心に留まったことを記録したりする。 ○学習したツール等を使って、多様なメディアに触れ、見たり、読んだり、聞いたり、表現したりする。	1・3 4 1 2・3 2・5	【書籍】 【家族や友達などの他者】 【書籍】 【会話】 【自主学習ノート】 【書籍】 【新聞】	【インターネット】 【メモ・付箋機能】 【学習支援クラウドアプリ】

学 習 場 面		学 習 活 動	読解力	学習方法・学習ツール例	ICTの利活用例	
授 業	導 入 (個 別 学 習)	○文章などを繰り返し読む。	1・4	【音読、黙読、視写、聴写】	【インターネット】	
		○意味の分からない語句や表現を取り出し、調べる。	1			
		○心に残る表現や大事だと思うところを探す。	1	【傍線や下線を引く】		
		○全体をいくつかの部分(問題、例、データ、まとめなど)に分けたり、事実と考えを区別したりする。	2	【丸や四角で囲む】		
		○語句と語句、情報相互の関係を見付けて、整理する。	3・4	【線でつなぐ】		
		○言語情報と、図・表・グラフ・写真などの関係を読み取る。	1・2	【図、表、思考ツール】		
		○問題の解決につながりそうな部分を見付ける。	3	【辞典、事典】		
		○思いついたことを書き留める。	2			
	展 開 (協 働 学 習)	B 読み取り、考えたことを書き表す	○箇条書きにしたり見出しを付けたりして、書き留めたことを分かりやすく整理する。	1・2	【メモ】	【メモ・付箋機能】 【画像や動画のキャプション】
			○書き留めたことを見返し、付け足したり、削ったりして、推敲する。	3・5	【付箋】	
			4・5	【ノート、ワークシート】		
				【ホワイトボード】		
				【図、表、思考ツール】		
業	展 開 (協 働 学 習)	C 他者から、考えや表現の仕方を学ぶ	○情報を出し合ったり、根拠を明確にして考えを伝え合ったりする。	1	【相互評価、コメント】	【チャット】 【学習支援クラウドアプリ】
			○他者の伝えたいことや考えがはっきりするように、質問や回答をする。	2	【話し合い、討論(ペア・グループ・クラス)、スピーチ】	
			○他者の考えを聞き、自分の考えや表現の仕方との共通点、相違点を見付ける。	3		
			○他者と協力して問題を解決する。	4	【ポスターセッション】	
				5	【質問、回答】	
					【図、表、思考ツール】	
	展 開 (協 働 学 習)	D 交流を生かして考えを表現する	○交流の中で心に残った他者の言葉や表現の仕方の工夫を書き留める。	1・2	【メモ】	【メモ・付箋機能】 【画像や動画のキャプション】
			○新しく知ったことや考えたことを付け加えたり、不要な情報を削ったりして、分かりやすい表現に直す。	4・5	【付箋】	
			○情報の軽重を判断し、色や印を使って可視化する。	2・3	【ノート、ワークシート】	
					【ホワイトボード】	
業	展 開 (協 働 学 習)			2・3	【線でつなぐ】	【メモ・付箋機能】 【画像や動画のキャプション】
					【図・表・思考ツール】	
業	展 開 (協 働 学 習)	E 学んだことを振り返る	○多様な考えや情報を比較したり、関連付けたりして、自分の考えを見直し、表現する。	3・4	【メモ】	【メモ・付箋機能】 【画像、動画】 【学習支援クラウドアプリ】
			○学習活動の達成感だけでなく、学んだことや考えたことも記録に残す。	5	【付箋】	
			○新たに生じた疑問や、次に向けての目標を書き留める。	2・4	【線でつなぐ】	
			○個々の振り返りを共有し、自分の学習に生かす。	3・5	【図・表・思考ツール】	
				2・4	【メモ】	
					【付箋】	
業	展 開 (協 働 学 習)			3・5	【ノート、ワークシート】	【メモ・付箋機能】 【画像、動画】 【学習支援クラウドアプリ】
				4・5	【ホワイトボード】	

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

1一

2一

4二

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

2四

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

1四

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

2四

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

1四

3四

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力



国語科、そしてすべての教科等において「徳島版読解力」の育成を目指しましょう！



すべての教科等にわたる「徳島版読解力」を生かした学力向上のポイント

「徳島版読解力」の育成をめざして

多様で複雑な現代の社会を生きていく児童生徒には、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、自分の考えを形成するために必要な情報を取捨選択し、選び取った情報を解釈したり活用したりする力が必要であると考えられる。このようなこれからの社会を生きるために必要となる力を徳島版読解力と定義し、すべての教科等においてその育成を図る。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力



「徳島版読解力」を育成する学習のイメージ

各学習段階、学習場面〔A～E〕において「5つの力」を育成！

〔授業〕

- ★ 全ての教科等での取組
- ★ 学習方法・ツールの工夫
- ★ 授業、授業外での繰り返し

導入（個別学習）

- A 情報を正確に捉える
- B 読み取り、考えたことを書き表す

展開（協働学習）

- C 他者から、考えや表現の仕方を学ぶ
- D 交流を生かして考えを表現する

振り返り（個別学習）

- E 学んだことを振り返る

「徳島版読解力」の育成に必要な学習活動

〔授業外〕

身に付けた学び方を、新たな問題解決に活用する

徳島県教育委員会

語彙指導について

「令和7年度中学校各教科等担当指導主事
連絡・研究協議会（国語部会）〈R7.6〉における
文部科学省教科調査官説明資料」より一部抜粋

語彙指導の内容

①語彙指導の改善・充実

中央教育審議会答申において、「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」と指摘されているように、語彙は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である。このため、語彙を豊かにする指導の改善・充実を図っている。

語彙指導の内容

語彙を豊かにするとは、自分の語彙を量と質の両面から充実させることである。具体的には、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語感を磨き、語彙の質を高めることである。このことを踏まえ、各学年において、指導の重点となる語句のまとまりを示すとともに、語句への理解を深める指導事項を系統化して示した。

語彙指導の内容

各学年の指導事項は、重点を置くべき指導内容を明確にし、系統化を図っている。

学年	語句のまとまり	語句への理解
1	・事象や行為、心情を表す語句	・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意
2	・抽象的な概念を表す語句	・類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解
3	・理解したり表現したりするために必要な語句	・慣用句や四字熟語などについて理解を深め ・和語、漢語、外来語などを使い分ける

語句の量を増すこと



語句についての理解を深めること

語感を磨き語彙を豊かにする

語感を磨き語彙を豊かにすること

学年	〔知識及び技能〕(1)に示す「語彙」に関する指導事項		
1	ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うこと	を通して	語感を磨き 語彙を豊かに すること
2	エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うこと		
3	イ 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けること		